

2021年度 個人研究実績・成果報告書

2022年 4月 25日

所属	基盤教育機構	職名	専任講師	氏名	大勝裕史
研究課題	ハリウッドの戦争映画の通時的研究：ヴェトナム戦争映画を中心に				
研究キーワード	戦争映画、ヴェトナム戦争、第二次世界大戦、朝鮮戦争	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	16. 平和と公正をすべての人に	5. ジェンダー平等を実現しよう	10. 人や国の不平等をなくそう	該当なし	

1. 研究成果の概要

まず2021年の7月にオンライン開催された本学国府台研究会において「1970年代のヴェトナム戦争映画：敗戦の表象」という発表を行なった。これは本学教職員向けに研究の概要を紹介するという趣旨でなされた。また『千葉商大論叢』において同発表の報告を掲載した。12月4日にはAsiaTEFLにおいて本学商学部酒井志延先生と共同で「外国語教育における機械翻訳の利用」という題目で発表した（当初インドで対面開催予定であったがコロナウィルス感染状況を受けてオンライン開催となった）。発表内容は、リメディアルレベルの学生に機械翻訳を使って英語から多言語（中国語、ドイツ語、フランス語など）への翻訳に取り組んでもらった際の学習者の意識調査である。2022年1月に提出した「ヴェトナム戦争中のロバート・アルドリッチ：第二次世界大戦戦闘映画『特攻大作戦』と西部劇『ワイルド・アパッチ』」は、2022年9月刊行予定の論文集の一章である。映画監督アルドリッチが、第二次大戦映画と西部劇のジャンルを改変しながら同時代のヴェトナム戦争に間接的に言及する様を論じた。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

【著書・論文（査読なし）】

大勝裕史「ヴェトナム戦争中のロバート・アルドリッチ：第二次世界大戦戦闘映画『特攻大作戦』と西部劇『ワイルド・アパッチ』」『映画史の論点』、ミネルヴァ書房、2022年9月刊行予定、第三章担当（2021年1月入稿、現在校正中）

大勝裕史「1970年代のヴェトナム戦争映画：敗戦の表象」『千葉商大紀要』（第59巻第2号）、2021年11月

【学会発表等】

大勝裕史「1970年代のヴェトナム戦争映画：敗戦の表象」国府台研究会、2021年7月

Shien Sakai and Hirofumi Ohkatsu, "Using Machine Translation in Foreign Language Education" AsiaTEFL 2021 Conference, 14 Dec. 2021.

3. 主な経費

研究費の大半は論文と教科書（2025年刊行予定の映画学の教科書、入稿前だが執筆を進めている）の執筆に必要な資料（研究書、DVDなど）の購入に充てられた。なお、当初の研究計画ではモニタを購入予定であったが、目下の論文・教科書執筆に必要な研究資料が想定よりも多くなったため、今年度は断念した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【科学研究費】

基盤研究 (C) : 2021-2023 年度、分担、課題名「機械翻訳を使いリメディアル教育を必要とする学習者の学習支援のための総合的研究」(21K00767)